

グローバル通信

2013.6 vol.29

Ryukoku University
GLOCAL TSUSHIN

例年よりも10日以上早い梅雨入り宣言が出されたものの、実際はすでに夏到来かのような日が続きますが、お元気に過ごされておりますでしょうか。入学式から2か月が過ぎ、研究生生活にも慣れた頃だと思えます。さて、2013年度最初のグローバル通信をお届けします。3班に分かれた特別演習ごとに今年の新入生の声をいただき、また、2012年度修了生の方々による「寄せ書き」もあり、盛り沢山な内容となっています。NPO・地方行政研究コース10周年記念企画も進行中です。夏休みの前に、海外・国内フィールド研究のテーマ決定の締め切りや、修士論文の中間発表会など、気の抜けない日が続きます。年齢も経歴も違う新しい仲間たちとの切磋琢磨の日々に想いを馳せながら、まずはこれから来る暑い夏を乗り切りましょう。(編集部)

さらなる議会の活性化に向けて	1
実践者、そして研究者としての越境	1
修士論文報告会 開催しました!	2
修了証授与式	2
修了生からの感謝の一言	2
NPO・地方行政研究コース 開設10周年記念事業を企画中	2
新任教員の自己紹介	2
特別演習 新入生自己紹介	3
修了生の今	4
教務課スタッフの紹介	4
編集スタッフの紹介	4
事務局インフォメーション	4



さらなる議会の活性化に向けて

山本 隆俊 (茨木市議会議長)

茨木市議会では、平成22年2月3日に龍谷大学と「地域人材育成に係る相互協力に関する協定」を締結させていただきました。締結当時、「議会」と「大学」間での連携協定の事例は全国でも珍しく、少なくとも西日本では初めてのことでした。

以来、龍谷大学とは、大学院修士課程「NPO・地方行政研究コース」に本市議会議員を受け入れていただいたのをはじめ、大学院からのインターンシップ生を本市議会事務局で受け入れ、議会運営事務等の実務体験をしていただいたり、本市議会開催の議員研修会に富野暉一郎先生、土山希美枝先生をお招きし、「分権時代の地方自治と地方議会の役割について」、「議会改革の動向と方向について」、それぞれご講演をいただくなど、積極的に交流を深めてまいりました。

このような中、本市議会では、昨年の9月定例会において「茨木市議会基本条例」を可決し、改選後の初日となる本年1月31日に施行いたしました。

この議会基本条例議案を提出するまでのプロセスとしては、平成22年10月に、全議員で構成する「議会改革・活性化検討委員会」を設置し、そのもとに「議会基本条例検討部会」と「議会広報等検討部会」を立ち上げ、条例や広報関係について検討し、議員間でのワークショップや条例素案に対するパブリックコメント、市民説明・意見交換会の開催など、種々、議論を重ねました。

この間、ワークショップや合同部会では、土山先生からご助言を賜るなど、協定書にも謳われている高度な学術情報の取得と専門的研究者との交流を図ることができました。

この議会基本条例では、市民の負託に応え、将来を見据えたまちづくりの実現に寄与することを目的に、議会の活動原則や市民と議会の関係、議会運営のあり方等を定めています。

さらに、本年3月27日には、改めて「議会改革推進委員会」を設置し、議会基本条例を実効あるものとするために、議会報告会のあり方についてなど、さらなる議会の活性化に向けて取り組んでいるところです。

実践者、そして研究者としての越境

渋谷 典子

(特定非営利活動法人参画プラネット 代表理事)



気がつけば、越境していた——それが、わたしの実感です。1993年、経済的自立を目指す女性グループ「ウイン女性企画」と出会い市民活動の世界へ。NPO法、男女共同参画社会基本法施行の追い風を受け、「持ち出し」「ボランティア」の段階を経て「対価を見出す」活動から「雇用を生み出す」事業へと、思わぬ展開が続いています。現在は、名古屋市男女平等参画推進センター指定管理者事業を「NPO法人参画プラネット」が担当し、センター全体を統括しています。

NPO活動では、女性たちのプレゼンスが高い——もう一つの実感です。企業主導の社会が続くなか、雇用という側面で女性たちはまだまだ弱者です。参画プラネットは女性たちが抱えるマイナス状況を「まるごと」プラスへ転換することを目標とし、すべての事業を女性が働くことで社会につながり(新しい働き方)、キャリアアップ(人材育成)を果たせる場であり、当事者として発言(政策発信)する場と位置づけ活動を推進。ワークシェアリングと短時間勤務を活用して仕事とケア・ワークを両立させ、さらには自己発達のための時間をもてるような働き方の枠組みをつくり、実践へと結びつけたのです。

とはいえ、日々の実践では「なぜ?どうして?」という問いが満載。実践からの問いを解くために選択したのが大学院です。「NPO活動と労働法」「女性のエンパワメント」「NPOと評価」——参画プラネットのメンバーは大学院博士課程に在籍し多様なテーマで実践研究に取り組んでいます。

研究という視点をもち実践をとらえることは、一人ひとりが複合的にチカラをつけるプロセスを生み出す源となっています。こうしたメンバーの波動を受け、名古屋から龍谷大学大学院NPO地方行政研究コースへ「越境」して進学したいというNPO活動者も出現するはず——選択縁としての大学院へ希望をこめて、実践と研究を越境しつつある日々が続いています。

修士論文報告会 開催しました！

上野 敏寛（政策学研究科修了生）

2013年3月9日（土）、深草学舎22号館にて「海外フィールド研究・修士論文報告会」が開催されました。本年度は、政策学研究科とNPO・地方行政研究コース（院生自主企画）の共同開催で行われ、海外調査報告2名と2012年度修了生15名が、教員・大学院生・OBOG等の方々の厳しい視線をあげながら、調査研究や修士論文が報告されました。報告では、まちづくり、地域づくり、地方自治、社会保障制度、少子化、青少年育成、保育、農業など多様な分野での政策論や政策提言が提起されました。最後に総評として石田研究科長・白石学部長から修了生にねぎらいと励ましの言葉が贈られました。報告会後の交流会では、報告会の緊張から解放され、修了生や教員、OBOG等の方々がなごやかな雰囲気ですり合う場となりました。



修了証授与式



2013年3月16日、15名が無事修了しました。
今後のさらなるご活躍を期待しています。



修了生からの
感謝の一言



10th Anniversary

**NPO・地方行政研究コース
開設10周年
記念事業を企画中**

本コースは2003年4月に産声を上げ、今年度で、11年目を迎えました。本来であれば、昨年度に開設10周年の記念事業を行うべきでしたが、諸般の事情で開催できず、現在、修了生有志の皆さんのご協力を得ながら、企画の検討を行っています。その詳細は次号でお知らせすることにしますが、いずれにしろ、このコースから巣立っていった修了生の皆さんを交えながら、本コースのさらなる発展を語り合う機会にしたいと考えています。乞う ご期待!!



新任教員の自己紹介



専門は北欧の政治学です。

渡辺 博明（法学部 教授）

はじめまして。今年4月に龍谷大学に着任しました。専門は北欧の政治学です。これまでは主にスウェーデンの福祉国家の発達における政党政治の影響について研究してきました。最近はいくつかの共同研究プロジェクトに関わりながら、北欧諸国の民主政治の構造変化や、移民問題をめぐる政治の動向について勉強しています。

研究以外では、見かけによらず(?)アウトドア派で、魚釣りや登山、旅行などが好きです。最近はなかなか思うように時間がとれず、出かける回数は減っていますが…。

NPO・地方行政研究コースには、社会人入学の方も含め、実践的な関心をもった院生が多いと聞いていますので、自身も刺激を受けつつ一緒に学びたいと考えています。よろしくお願ひします。

特別演習 新入生自己紹介

本コースに新たな新入生が入学されました。特別演習ごとに新入生の自己紹介と集合写真を掲載しております。

①氏名 ②所属（協定締結先のみ） ③研究テーマや趣味など



Wednesday 〈水曜日〉高橋進・中村剛治郎ゼミ

①塩野 眞美

③農業用水の水利権に関する仕事をしています。その関係から灌漑用水の水利秩序に関する研究を計画しています。私は、短大卒で、しかも農業土木科卒。卒論もコンクリートに関するものでした。それなのに政策研究の修論を書くとは…、自分でもどんな論文になるのか楽しみです。

①千葉 有紀子

② NPO 法人環境市民
③ハンガリーの旅ではまってしまったコウノトリが大好きで、コウノトリで世界を繋ぎたいと思っています。修論もコウノトリで書きますが、現在各国の文献に手こずっています。写真工学科出身で、写真展なども時々やっています。活力源は蜂蜜と着物と嵐の二宮くん。なるべく周りにピンク色の物を置いて運気を上げようとしています。

①坂田 翔麻

③南国宮崎出身です。京都は中学校の修学旅行以来です。京都の冬はとても寒いと聞くので、無事に過ごせるか不安です。趣味はサッカーとギターと読書です。京都でしかできない経験をどんどん積み重ねて、日々成長していきたいと思っています。よろしくをお願いします。

①坂西 卓郎

②特定非営利活動法人関西 NGO 協議会／公益財団法人 PHD 協会
③今は明石に住んでいて、大学までは片道 2 時間半をのんびり通っています。現在は PHD 協会というアジアの草の根の人達を招聘して、一年間有機農業や保健衛生の研修を行う民間の国際協力団体で働いています。研究テーマは帰国後の研修生のインパクト評価及びフォローアップについて取り組みたいと考えています。

①古尾谷 雅博

②大津市議会
③衆議院議員秘書の時代に、日本を良くするためには地方政治こそが重要だと気づき、大津市議会議員選挙に出馬。市財政健全化への推進や、時間軸的（将来的）視線を考慮した市政運営に切り替えるべきだと訴え活動しており、龍谷大学での研究課題も、そこを踏まえた研究をしたいと考えています。



Thursday 〈木曜日〉大矢野修・矢作弘ゼミ

①白田 一彦

② NPO 法人あったかサポート
③法学研究科在籍です。研究分野は社会法（労働法、社会保険法）で、テーマは「副業をめぐる労働法上の諸問題」です。社会保険労務士の仕事をしており、研究の過程を通して実務上の問題点を明らかにし、その解決を図る方策を見つけることを目標としています。また、その成果を団体での活動に活かして行きたいと思っています。

①黒澤 英昭

②京都市役所（伏見福祉事務所保護課）
③普段は福祉事務所で生活保護の仕事をしています。趣味は日本酒、特に無濾過生原酒が好きです。フルーティでフレッシュな味のものもあってオススメです！4月に職場が変わったので、仕事と大学院の両立ができるか、プレッシャーを日々感じています。1年間よろしくをお願いします。

①李 夢君

③私は留学生の一員として、中日友好のために掛け橋になりたいです。観光に興味を持ちまして、国際観光を通じて中国人と日本人との交流をしながら、異文化を体験し、もっと両国の魅力的な所を感じてほしいと思います。

①岡田 覚（おかだ さとる）

②大阪市役所
③役所の役人が、地域公共人材としての力を身につけることで、地域のさまざまな関係者間の協働が進み、地域のさまざまな課題が今より一歩先へ歩みだせるのでは？そんな思いを持って1年間取り組みます。近くでもこれまでなかなか縁がなかった京都から、そして大学から仲間から、多くの学びを自らのものとして掴もうと思います。

①林 久善

②大阪市役所
③持続可能な地域社会づくりについての見識を深めたいと考えております。そのためにはマルチステークホルダープロセスが重要となっており、多くの市民の参加、多様な組織の協働の推進と、触媒的な地域公共人材に着目した取組について学び、大阪市の施策・事業に反映したいと考えております。

Saturday 〈土曜日〉富野暉一郎・渡辺博明ゼミ

①高橋 美花

③京都府舞鶴市における「インバウンド観光」の公民協働システム構築に関する実践的な研究です。
日・韓両国の通訳案内士として、日韓文化交流や外国人観光客誘致の為のおもてなし力の向上と受け入れ環境整備に関するアドバイスや観光人材の育成に力を注いできました。大自然と街中を歩くのが大好きでエコツーリズムにも関心が高いです。

①山崎 元気

②特定非営利活動法人みせら
③みせらは「未来と世界を螺旋でつなぐ」を合言葉に「小規模中間支援事業」を進めています。その活動を通して、この1年は実践研究をしたいです。趣味は音楽でギターを弾きます。約10年ぶりの学生生活を楽しくつつ、社会人の経験を活かして学びたいと思います。

①中村 麻伊子

③同質化した社会は、一体感がある一方で溢れる人がいます。どうして溢れてしまうのか、それを住民が主体となった地域のコミュニティは包含できないのか、そのようなことを研究できればと思っています。好きなことはお酒を飲むこと！皆さんと楽しいお酒を飲み交わすことができればと思っています。

①兼次 賢一

③神戸コミュニティFM わいわいで毎月第一月曜日 13～14 時の南の風 沖繩編 DJ を務めています。番組は現地沖繩情報、方言講座、ライブ情報、沖繩音楽・民謡紹介、又素敵なゲストとトークを交え、6年目を過ぎました。応援メッセージは私にとって心のビタミン剤。インターネットでも聴けます。

①片岡 華絵

③学部生の時にボランティア活動に出会い、そのおもしろさと奥深さに多くの事を学びました。政策学研究科では、ボランティア活動の「学び」に着目して研究を進めていきたいと思っています。また、世代やジャンルを問わず様々な人との交流を大切に、自分自身も成長したいと思っています。



①小田 浩文

②大津市役所
③今、救命するためには高度な医療提供が必要だという論議が行われていますが、高度な医療提供だけでは救命できません。私は、不適切な救急車利用を減らすことで、助かる命を確実に助けるシステム作りをしたいと考えています。これが現職の救急救命士である私の研究テーマです。皆様、よろしくをお願いします。

物語ることによって生まれる可能性を追求して

池田 佳代 (2011 年度修士課程修了)



ファシリテーター(左/筆者)が作品の完成を見守りつつ必要なサポートをしている様子

私の研究テーマは市民社会とメディアです。修士論文ではデジタル・ストーリーテリング (DST) の実践分析に取り組みました。DST は、人々が抱える思いや経験を短編映像に仕上げる集団活動です。現在は、この手法を NPO が行うアドボカシーや活動の広報、青少年の表現力を磨く講座に取り入れる実践を行っています。今年 2 月、高校生ら 7 人が参加した伏見区青少年活動センターのワークショップでは、DST の前後にメディア概論を講義し、市民が実践するメディア活動例を紹介する時間を加えました。完成した作品には、友、地域、仕事、エネルギーなどが等身大に描かれています。市民の表現力が注目される今、DST はそうした力を実践的に磨く機会の一助になりうると感じています。

修了生の今

キャップストーンを終えて

千代 苑子 (政策学研究科修了生)

今、地域における“新たな役割”が大学に求められているという背景のもと、私たちのキャップストーンでは龍谷大学政策学部をクライアントとし、「深草地域」「府北部地域」において果たすべき大学の役割について現状の分析・提案を行うことがテーマでした。教員の先生方を対象とした WS、院生へのアンケート調査、学部生・職員・深草支所・伏見いきいき市民活動センターへのヒアリング等を行い、既存の活動 (Ryu-SEI GAP 等) の意義や課題の整理に取り組みました。調査を行えば行うほど新しい気づきが得られ、絡まった紐を 1 つずつ紐解こうとしているかのような半年間のプロセスでした。革新的な提案を導くまでには至りませんでした。与えられたテーマにあらゆる角度から取り組む中で 2 年間の学びの引き出しを再度振り返ることができ、徐々に鳥の目をもって課題に向き合うことができるようになったと感じます。今後の地域での活動に大いに活かしていきたいです。



教務課スタッフの紹介

2013 年度の法学研究科大学院及び政策学研究科大学院 (兼: NPO・地方行政研究コース) の担当者です。コース生の皆さまのサポートをさせていただいています。コースや履修に関するご相談については、お気軽に窓口にお越しください。お待ちしております。



中西美也子 (左・政策学研究科)
瀧下 昌学 (右・法学研究科)

編集スタッフの紹介

グローバル通信 29 号では、昨年度担当の竹本真梨に引き続き、今年度担当の片岡華絵・千葉有紀子の 3 名で編集を行いました。今年もコースの楽しさや面白さをグローバル通信でたっぷりお伝えしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



事務局インフォメーション

〈地域リーダーシップ・先進的地域政策研究講演会〉

第2回 6月29日 (土) 13:30~15:00

- 講師: 山下 真氏 (生駒市長)
- テーマ: “真に自立したまち”をめざす、生駒市長の挑戦
~21世紀 生き残るための自治体ビジョンとは~

第3回 7月31日 (水) 18:30~20:00

- 講師: 田中 秀門氏 (亀岡市政推進室)
- テーマ: これからの自治体政策のつくり方と職員像
—地域と自治体と大学が連携してつくる政策のカタチ—

〈論文中間発表会〉

●日時: 7月13日 (土) 13:20~17:00

●場所: 龍谷大学深草学舎22号館104教室・105教室

〈協定先懇談会〉

●日時: 7月24日 (水) 12:00~15:00

●場所: 龍谷大学深草学舎紫英館大会議室

NPO・地方行政研究コース ニュースレター「グローバル通信」通巻 29 号 2013 年 6 月

発行/龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース
連絡先/政策学部教務課
TEL: 075-645-2285 FAX: 075-645-2101

H P / http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/
編集/片岡華絵、千葉有紀子、竹本真梨
編集補助/中西美也子
監修/大矢野修、松浦さとし、土山希美枝、的場信敬
印刷/株式会社 田中プリント